

総合的な探究の時間の第1の目標

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解できるようにする。
(2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
(3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

学校の教育目標

グローバルな課題の解決に挑む力、持続可能な社会づくりに貢献できる力を育む

- (1) ICT を効果的に活用した、「主体的・対話的で深い学び」の授業実践
(2) 探究を軸とした学びへのスタイル改革の推進
(3) 教科横断的な教育課程によるシティズンシップ教育の充実
(4) 様々な研修や留学生の受け入れによるダイバーシティ教育の充実

各学校で定める目標と育成する資質・能力

以下の具体的な資質・能力の達成に向けて、探究を軸とした創造的な学びを実現する。

- (1) 自ら課題を発見し、協働しながら創造的に解決できる力、及び情報モラルを含む情報活用能力
(2) 予測困難な現実社会に目を向け、他者と協働しながら諸課題の解決に主体的に学び続ける資質・能力
(3) 多様性を受容し、グローバルな視野で思考・判断・表現できる資質能力

総合的な探究の時間の学習評価

- (1) 中高6年間を貫く探究的な学びのグランドデザインを基に、発達段階に応じた到達目標に基づく自己評価、及び生徒間の他者評価、教員からの評価を行う。
(2) クラッシーのポートフォリオ機能やグーグルフォームなどを使って、生徒が振り返りを作成・蓄積し、自己評価や取り組みへの改善に生かせるようにする。
(3) 指導・評価に携わる教員を中心に、週に1度の年次会や探究推進部会で、探究の取り組みや指導上の課題などについて情報を共有する。
(4) 各種探究コンテストへの応募を積極的に促し、生徒の探究活動が校内だけでなく、外部から客観的に評価されるようにする。

生徒の実態

・中高合同発表会の公開実施や成果の外部発信などが刺激となり、意欲的に探究に取り組む生徒が増えている。附属中からの内進生には、中高合同の探究活動や行事の経験を積んできた生徒も多く、高校でも自信をもって活動の中心となっている者が多い。
・主体的に新しい活動に取り組める生徒が増えている一方、自己理解の不十分さや経験不足から、挑戦や失敗を恐れてしまう生徒もいる。
・進路意識に差があり、授業や課外活動に積極的に取り組む者が多い中で、目標が定まらず、継続的に努力する習慣がついていない生徒も見られる。

生徒の発達をどのように支援するか

○配慮を必要とする生徒への指導

・多様な価値観や個人の得意・不得意を考慮し、それを生かして協働するよう指導する。
・探究では、失敗からも学びがあることを伝え、失敗を恐れず取り組むよう指導する。
・協働活動では、班員の人選に配慮したり、活動の様子を注意して観察したりして、大きなトラブルが起きないように対応する。
・個別に声かけを行い、無理のないよう支援する。

目指す生徒の姿

- (1) 自ら課題を発見し、協働しながら創造的に解決できる力及び情報モラルを含む情報活用能力を身に付けた生徒
(2) 予測困難な現実社会に目を向け、他者と協働しながら諸課題の解決に主体的に学び続ける生徒
(3) 多様性を受容し、グローバルな視野で思考・判断・表現できる生徒

各学校が定める内容（目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題を通して育成を目指す具体的な資質・能力）

1年次 探究課題：課題発見力、コミュニケーション力、協働性の育成

- (1) 知識および技能
・探究ガイダンス ・新聞を活用した発表練習 ・ビブリオバトル
・3年生による探究紹介 ・AI チャレンジ ・大学生による探究ゼミ
(2) 思考力、判断力、表現力
・協働探究 ・中高合同探究活動及び発表会
(3) 学びに向かう力、人間性等
・ライフスキルワークショップ 卒業生や大学教授による各種講話

2年次 探究課題：課題解決に向かう力、論理的なコミュニケーション力、社会貢献意識の育成

- (1) 知識および技能
・探究ガイダンス ・AI チャレンジ ・大学生による探究ゼミ
(2) 思考力、判断力、表現力
・協働探究 ・中高合同探究活動および発表会
(3) 学びに向かう力、人間性等
・修学旅行でのフィールドワーク 卒業生や大学教授による各種講話

3年次 探究課題：課題解決（改善）力、効果的なコミュニケーション力、情報活用力、社会に貢献する力の基礎を育成

- (1) 知識および技能
・進路探究ゼミ
(2) 思考力、判断力、表現力
・思考力・判断力・表現力診断テスト ・3年間のポートフォリオ作成
(3) 学びに向かう力、人間性等
・1年生に向けた探究紹介 ・1・2年生に向けての進路座談会

※全学年で「青龍アラカルト課外」（希望者対象の探究的な課外）を実施する。

学習活動、指導方法等

1年次

- (1) 探究ガイダンスにより探究の意義・目的・目標を知る。新聞記事を活用してプレゼンテーションの練習をする。ビブリオバトルにより、互いを知り、コミュニケーション力を高める。3年生による探究紹介や掲示された探究ポスターで、探究のイメージを具体化する。AI チャレンジで、AI を探究に活用する意識・スキルを高める。大学生による探究ゼミで、大学生とのやりとりを通じてコミュニケーション力を高め、他者の視点で探究を改善する。
(2) 協働探究を段階的に実施する。中高合同探究活動及び発表会で他者の探究からも学ぶ。
(3) ライフスキルワークショップなどを通じて、協働性を育成する。

2年次

- (1) AI チャレンジでは、AI を活用して探究を効率化するスキルを身につける。大学生による探究ゼミにより、改善された内容を探究発表会で発表する。
(2) 外部との連携やフィールドワークを取り入れて、探究活動を深化させる。中高合同探究発表会では、代表班がステージ発表を行い、全員がポスターセッションを行う。
(3) 沖繩修学旅行に探究的な視点をもって参加し、地域の特徴を比較・分析して地域課題の発見力を高める。

3年次

- (1) 進路探究ゼミでは、進路に合わせた探究的な学びを計画・深化させる。
(2) 思考力・判断力・表現力診断テストにより自己の力を客観的に把握する。3年間の探究ポートフォリオを作成し、学びを振り返って言語化し、自分の言葉で語れるようにする。
(3) アドバイザーとして、1年生に向けた探究紹介を行う。進路座談会では、探究の学びを進路実現にどのように生かしたかを後輩に伝える。
※プログラミング講座、動画・ポスター作成講座・まちづくり講座などの「青龍アラカルト課外」に適宜参加し、探究活動のスキルを高める。

指導体制（環境整備、家庭・地域との連携）

- ・探究推進部（DX ハイスクール担当・図書室担当を含む）
・探究推進協議会（大学教授など外部委員で構成）
・探究委員会（生徒の委員会）
・年次担当教員（探究ファシリテーター1名を含む）
・他分掌（キャリアサポート部・特別活動部等）との連携
・教科・科目担当・授業改善チームとの連携
・附属中学校との連携
・自治体・団体（県北振興局・観光物産課など）との連携
・茨城大学教育学部、全学教職センター、学生サークルとの連携
・地域連携、企業連携、海外の学校との交流
・太田一高同窓会との連携

- ・探究推進部を中心に、年次、他分掌や校外の他団体と連携をとって指導を企画する。
・探究推進協議会からの助言・評価を取り入れて、持続可能な探究活動を企画・実施する。
・生徒の探究委員会とともに、探究意欲が高まる環境作り、主体的な探究発表会の運営を目指す。
・常陸太田市など関係機関に広報の協力を依頼し、中高合同探究発表会を一般公開して実施する。
・DX ハイスクールとして、デジタル活用探究やプログラミング講座を地域の企業と連携して行う。
・茨城大学の教員志望学生サークルと連携し「大学生による探究ゼミ」を発展的に実施する。
・チャレンジプロジェクト教員養成特別枠として高大連携し、ワークショップなどを企画する。
・探究活動の英語での紹介など、授業の中での探究的な活動や、教科横断的な活動を奨励する。